

科目名	担当教員	学期	単位
政治学フランス語文献研究A	片岡 貞治	前期	2

講義概要

フランスは、国際社会の中で、主要な外交プレイヤーとして、毅然と独自性を打ち出してきた。第二次大戦での苦い経験を背景とし、文化外交というソフトパワー及び軍事力というハードパワーを両輪としてフランスは自主独立の外交政策を巧みに実践している。こうした外交政策の背景にあるものは何か。確かに、フランスは核保有国でもあり、国連安保理の常任理事国でもある。しかし、そうした側面だけでは説明されえない、歴史的に裏打ちされた外交的影響力を有しているのである。本講義では、現代フランスの外交と内政を体系的且つ論理的に考察していくことを目的とする。フランス政府の公式文書、学術書、学術雑誌、新聞などを講読しつつ、現代フランスの内政・外政状況を理解する。フランスの政治システムに関する概略についてもフォローしていく。

シラバス

1. イントロダクション
2. フランス内政・外政文献講読
3. 議論
4. ラップアップ

教科書

講義中に適宜指示する。

参考文献

評価方法

総合的に評価する。

関連URL

備考

勉強だけではなく、如何に生きるか、如何なる人間になっていくかを常に考えて人間性を高める努力を怠らないで欲しい。